

第5学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年7月15日（火）第5校時

13:25～14:10

対 象 第5学年2組 24名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

会 場 4階 5年2組教室

令和7年度 研究主題 学びを深める児童の育成 ～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

1 単元名 日本語の秘密を発見して、自分の考えを6年生に伝えよう

教材名 『言葉の意味が分かること』（光村図書 5年）

並行読書材『日本語をつかまえろ!』（飯間 浩明 文）

2 単元の目標

- ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能] (1)カ
- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア
- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)ア
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ	① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)	① 粘り強く文章を読み、何度も交流を繰り返し、要旨を捉え文章に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
② 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C(1)オ)	

4 児童の実態

- ・4年生で学習した『くらしを便利にするために』では、自分の経験と結び付けて考えを交流する活動を行った。自分の経験を想起できる児童は多かったが、内容を理解し、筆者の考えと比べながら交流するというところに課題があった。

5 教材について

本教材の「言葉の意味が分かること」は、「言葉の意味について見直すことが、ものの見方を見直すことにつながる」と説き、言葉の意味の「広がり」や「面」など、筆者の考えに基づく独特の表現を用いて論を展開している。これらの表現については、文章の中で丁寧に説明されているので、その意味をしっかりと押さえるとともに、言い換えられているそれぞれの言葉がどう結び付いているかにも注意しながら読み進めさせたい。文章の構造としては、「初め」「中」「終わり」の内「初め」と「終わり」に筆者の考えが述べられる典型的な双括型の文章となっている。「初め」に示される筆者の考えよりも「終わり」に示されるものの方が、「中」での議論を受けて深まりや広がりのあるものとなっていることも特徴的である。

並行読書教材の「日本語をつかまえろ！」は、言葉に関する文章が様々なテーマに分かれ書かれているものである。見開き2ページで1テーマの文章が完結するコラム形式なので、児童も読みやすく、自分の興味のあるもの、または自分の考えに近いものから選んで読み進めることができると予想される。ただし、テーマによって文章全体の構成が異なるので、教材文と同じように容易に要旨を捉えられるものとそうでないものが混在している。配布する文章を選別することや要旨を捉える際の追加の指導が必要である。

6 研究主題との関連

(1) 目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

(2) 研究主題に迫るための手だて

①言語活動の工夫

ア 言語活動

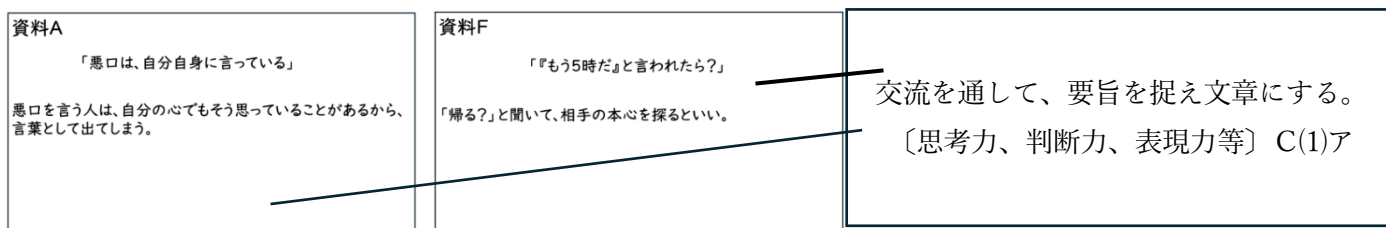
複数の資料の要旨を捉えて、言葉について考えたことをまとめ、6年生に伝える。

イ 言語活動の特徴

本単元では、言葉について書かれた教材文や複数の並行読書教材を読んで要旨を捉えることと、要旨を捉えた上で、自分がこれからどのように言葉を使っていきたいかを具体的に考えることを目指す。児童はこれまでの学習で、「考えと理由・事例の関係に注意して読むこと」「段落相互の

関係を考えること」などを通して、筆者の説明のしかたの工夫を見付けてきている。要旨を捉えることにおいては、筆者の考え（主張）の中心や内容の中心となる事柄に着目する必要があるため、これまでの学習を生かし、文章全体の構成を把握しながら、要旨を捉えられるようにさせたい。考えの形成においては、単元の初めに、「言葉とはどういうものか。」という問いに対し、自分なりの思いや考えをもたせ、複数の言葉に関する文章を読み、要旨を捉えた後に「これから言葉をどのように使っていきたいか。」を具体的に考えさせる。また、どちらにおいても友達との交流を何度も繰り返ししてから文章を書かせることで、要旨の捉えや自分の考えをしっかりと言語化できるようにさせたい。単元の最終では、6年生に自分の考えを伝えるということを設定し、児童の学習に対する意欲をもたせるようにした。

ウ 言語活動モデル



自分の考え

資料 A、悪口を言う人は自分自身に言っているということが書いてありました。

資料 F、人がはっきり自分の気持ちを言わない時にどう答えれば良いかが書いてありました。

僕は、言葉が時として相手を傷付けてしまうものだと考えていました。だから、使う時には、言われた側の気持ちを考えるべきだと思っています。

例えば、友達と何をして遊ぶかを決めようとした時に、自分以外の友達が、自分の希望とは違うものを提案したとします。僕は、今までそういう場面では、「別にいいよ。」などと言っていました。でも、その言葉はあまり良くないと気付きました。「別に」という言葉が、相手を嫌な気持ちにさせていると思うからです。

だから、ここからは「それもやりたい。けれど、実は〇〇もやりたいんだ。どうかな?とはっきりと伝えていきたいです。

- ①「言葉はどのようなものなのか」教材文を読む前の自分が考えを書く。
 - ②自分の経験を書く。
 - ③教材文を読んで、「これから言葉をどのように使っていきたいか」を書く。
- 〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) オ

②交流活動の工夫

ア 相手と目的を意識した交流活動の設定

要旨を捉える時間の交流では、筆者の考え（主張）の中心や内容の中心だと思う文に線を引き、それらを選んだ理由について交流することで、正確に要旨を捉えることができると考えた。自分の考えを形成する時間の交流では、複数の資料を読み捉えた要旨を踏まえて、「これから言葉をどのように使っていきたいか」を具体的に考え、資料にある事例等を指し示しながら交流することで、自分の考えをはっきりさせられると考えた。

イ 交流の進め方をつかむためのモデル動画の作成

自分が選んだ言葉や文について、友達と交流することによって選んだ理由をより明確にすることができると考えた。今までの実践で、子供たちが思いや考えをもっているが、子供たちが思いや考えを持っているが、伝え方が分からず、うまく交流できないという課題があった。そのため、交流のモデル動画を作成し、交流の目的を明確にしたり、交流の方法を具体的に提示したりした。モデル動画を作成するために留意したことは以下の点である。

- ・子供たちがどのような交流をすれば、当該単元で育てたい資質・能力を発揮した交流になるのか、指導事項と関連させて考えた。
- ・どのような手順で交流を進めるのか、持ち物や席の座り方、返答の仕方などを具体的に提示した。
- ・交流するときの、全文シートの使い方、線の引き方など、複数の叙述を比較したり、複数の資料を参考にしたりして考えを明確にする手順を示した。

ウ 主体的に交流に参加するために

児童が交流する相手は、給食のグループや隣の席の子供というような機械的に決められた相手ではなく、一人一人が自ら目的をもって決めることとした。交流の場面では、次のような手だてで相手を自分で選べるようにした。教科書教材の場合は、全文が掲載されてあるものを黒板に掲示し、子供たち一人一人が、経験したことのあることや筆者の主張や考えだと思ふところや文に付箋を貼った。これにより、本文と付箋を頼りに自分が交流したい相手を探せるようにした。また、並行読書材の場合は、並行読書マトリックス表を用いて、自分の考えをはっきりさせたかったり、自分の考えを試したかったりするなどの目的をもって、自分で相手を選んで主体的に交流ができるようにした。

7 単元の指導計画と評価計画（7時間扱い）

次	時	・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準
第0次	1	学習の計画を立て、見通しをもとう。 ・言葉についての文章を複数読み、要旨を捉え、自分の考えをまとめ学習の流れを確認する。 ・学習計画を立てる。	

第一次	2	「言葉の意味が分かること」 「言葉の意味が分かること」を読んで、どんなことが書いてあるかを捉えよう。 ・「言葉の意味が分かること」を読み、「自分も経験したことがある」と思うところを見付ける。 ・交流で自分の経験を友達に伝え、文章にある事例を捉える。	【知識・技能】 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の種類とその特徴について理解している。 (交流・全文シート) 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (全文シート・発言)
	3	「言葉の意味が分かること」 言葉の秘密を発見するために「言葉の意味が分かること」の要旨を捉えよう。 ・交流モデル動画を見て、交流の流れを確認する。 ・交流を通して、叙述を基に文章の要旨を捉える。 ・交流したことを基に要旨のスライドを作成する。	
第二次	4	「並行読書教材」 言葉の秘密を発見するために自分が選んだ資料の要旨を捉えよう。 ・自分の考えをまとめるのに役立ちそうな資料を2～3つほど決めておく。 ・交流モデル動画を見て、交流の流れを確認する。 ・マトリックス表を基に、交流する相手を決め、交流する。 ・交流を通して、叙述を基に文章の要旨を捉える。 ・交流したことを基に「要旨」のスライドを作成する。	【思考・判断・表現力】 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (交流・プレゼンテーションソフト) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (交流・プレゼンテーションソフト)
	5	「言葉の意味が分かること」 言葉についてのスライドを作るために、交流をして自分の考えをまとめよう。 ・交流モデル動画を見て、交流の流れを確認する。 ・捉えた要旨を踏まえて、自分がこれから言葉をどのように使っていきたいかを交流を通して具体的に考える。 ・交流したことを基に「自分の考え」のスライドを作成する。	
	6 本時	「並行読書教材」 言葉についてのスライドを作るために、交流をして自分の考えをまとめよう。 ・交流モデル動画を見て、交流の流れを確認する。 ・捉えた要旨を踏まえて、自分がこれから言葉をどのように使っていきたいかを交流を通して具体的に考える。 ・交流したことを基に「自分の考え」のスライドを作成する。	

		「並行読書教材」 まとめた自分の考えを6年生に伝えよう。	
	7	・友達と再度交流をして、資料を基にした自分の考えをまとめることができるかを確認する。 ・必要があれば修正をする。 ・6年生に伝える。(別日の朝学習の時間等で行うことも考えられる。)	

8 本時（全7時間中の第6時間目）

(1) 本時の目標

複数の資料を読んで捉えた要旨を踏まえて、どのように言葉を使っていきたいか自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	・指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	1 単元のゴールを確認する。	・スライドのモデルと学習計画表を振り返り、単元のゴールを確認する。	
	2 前時の学習を振り返る。	・全文シートやマトリックス表、交流活動で学習してきたことを確認する。	
	3 本時のめあてを確認する。	・交流のモデル動画を見て、流れを確認する。	
	言葉についてのスライドを作るために、交流をして自分の考えをまとめよう。		
展開① (25分)	4 「言葉についての自分の考え」スライドを作るために、友達と交流して、これからどのように言葉を使っていきたいかについて具体的に考える。	・資料の叙述を基に交流させる。 ・複数の叙述を結び付けている児童を認めていく。 ・仲の良い児童同士の交流だけにならないように、並行読書マトリックス表を基に交流するように促す。 ・交流が停滞しているグループには、教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、「この文章はどんなことが書いてあったか」「それを読んで、これから言葉をどのように使いたいと思ったか」などと質問をして交流を促す。 ・選んだ資料を事前に把握しておき、停滞が見られそうな児童とその児童への手立てを想定しておく。	【思考・判断・表現力】 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (交流・言語活動) 【A規準】 交流を通して、文章の要旨を基に、自分がこれからどのように言葉を使っていきたいかについて、具体的な場面や言葉を例示しながらまとめている。 【B規準】 交流を通して、文章の要旨を基に、自分がこれからどのように言葉を使っていきたいかについて、まとめている。

展開② (10分)	5 交流したことをもとに、スライドに自分の考えをまとめる。	・捉えた要旨や交流したことを基にして、具体的に書くように促す。 ・なかなか理由を文章にできない児童に対しては、個別に友達と話し合ったことを想起させる。	【B基準に達しない児童への手立て】 教師が3人目のメンバーとして交流に加わり、文章の要旨を一緒に確認したり、そこから考えられる言葉の使い方についての例示を目の前でしたりする。
まとめ (5分)	6 本時の振り返りをする。	・交流を通して自分の考えをはっきりさせ、文章にまとめることができたかを振り返らせる。	

(3) 研究の視点

- ・交流は自分の考えをまとめるために効果的だったか。
- ・交流のモデル動画や並行読書マトリックス表等は、児童が交流するときの手助けとなっていたか。

(4) 板書計画

並行読書マトリックス表	【交流の目的】 自分がこれから言葉をどのように使っていきたいかを具体的に考えて、文章にまとめる。	言語活動モデル 言語活動モデル 言語活動モデル 言葉についてのスライドを作るために、交流をして自分の考えをまとめよう
--	--	--